

令和元年12月25日（水）

田園調布雙葉学園との交流会

12月25日(水) 岩手県被災地訪問の一環として、田園調布雙葉学園の高校生が大槌町を訪問しました。

午前中は、本校の佐々木朱里さんと瀬戸翼さんが、一般社団法人「おらが大槌夢広場」の語り部として町内を案内しました。

案内した瀬戸翼さんは、「震災発生時の状況を語る時、雙葉学園の人たちは全員パニックになって慌てて避難していたイメージを持っていたようで、『震災の2日前に大きい地震が何回かあったため、特に慌てることもなく避難できた』ということを読んだ際に驚かれた。自分が普段思っていることを言葉にして人に伝えられてよかった。」と、感想を話していました。

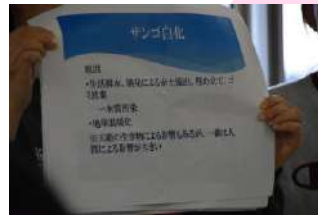


そして午後、本校で交流会が行われました。

各校の代表から挨拶があった後、瀬戸翼さん、里舘一誠さんら9名のグループが郷土芸能「七福神」を披露しました。初めて見る郷土芸能に雙葉学園の生徒たちは大盛り上がりでした。



交流会では、4グループに分かれ、お互いの学校で行っている探究活動の発表をしました。田園調布雙葉学園は、修学旅行で訪れた沖縄県からテーマを見つけ、1~3人で探究活動を行っています。米軍基地問題やサンゴ礁をどうやって守るかといった時事問題をテーマにした発表、沖縄と本土の信仰の違いや文化についての発表がありました。基地問題に対する報道各社の姿勢の比較や、「神」の比較対象として「おしらせさま」の話題を織り込むといった、様々なことに興味をもって深い探究活動をしていました。



一方、本校生徒も4つのマイプロジェクトを発表しました。プログラミングを用いて部活動のホームページの作成を目標としている生徒の発表、吉里吉里の郷土芸能の調査、災害時における認知バイアスの解除のための取り組み、大槌町で獲れる魚の調査結果を雙葉学園の生徒たちに熱く語りました。お互いに刺激しあえるいい発表会でした。

最後に、雙葉学園からお礼として手作りのクッキーをいただきました。生徒たちからはとてもおいしいと評判がよかったです。本校からは復興研究会の活動記録集を差し上げました。

はじめはお互いに緊張していたものの、交流会が終わるころには双方とも笑顔が絶えない素敵な交流会となりました。

